

「そのかたは、よみがえられた」

詩篇 第126篇 1節～6節  
ルカによる福音書 第24章 1節～12節

説教 岡村 恒 牧師

「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」。空(から)の墓に響いた言葉です。多くの人が、この日の弟子たちのようにこれを「愚かな話」だと思いました。

主イエスは確かに、十字架の上で死なれました。この日、墓に行った女の人たちは、主イエスが十字架にはりつけにされる様子をじっと見ていました。十字架の上でお語りになったお言葉を聞き、主イエスの体が十字架から降ろされて墓に埋葬される様子もずっと見ていました。主イエスの死の目撃証人でした。

ところがこの朝、主イエスの墓は空になりました。そこにいた輝いた衣を着た二人の人は言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」。(5節、6節)主イエスは確かに死んで、墓に葬られたのです。「なぜ」と問うのはとても不思議です。

今日でも、多くの人が「死人の中に」主イエスを発見しようと捜しています。かつて生きていた人物、特別な生涯を送り、特別な言葉を残し、多くの人に影響を及ぼしたが死んでしまった過去の人として、主イエスを死人の中に捜しています。しかし主の使いは、私たちに「なぜ」と尋ねます。的外れな場所で、なぜ探しているのかと問うのです。

主イエスは、ご自分が苦しみを受け、十字架にかけられ、死んで葬られ、三日目によみがえられることを、何度もお語りになりました。そしてその約束の通りに、主イエスの墓はあの朝空になりました。イースターの出来事を、代々のキリスト教会は〈空虚な墓の物語〉と呼んできました。この空の墓の物語は、世界中の人々に希望を与えてきました。死んで葬られ、肉体が土の塵に還っても、それで全てが終わるのではないことが、あの朝、はっきりしたからです。

この朝、マリヤや女の人たちは、主の復活の〈証人〉となりました。主の死を目撃したからこそ、誰よりも確かな復活の証人になることができました。もう空の墓で主イエスの体を探すことはしませんでした。主イエスがおっしゃったお言葉を思い出し、その約束が実現したことを知ったからです。

しかし、彼女たちの話を聞いても、弟子たちには信じられませんでした。ペテロはわざわざ

墓まで走って行って、主イエスの墓が空であることを見てきました。そこには主イエスの体に巻かれていた布がそのままの形で残されていました。死体がどこかへ運び出されたり、盗まれたのではないことは分かりました。しかしペテロは、「不思議に思いながら帰って行」(12節)きました。何が起こったのか、理解することができませんでした。弟子たちはまだ聖霊を受けていませんでした。神様が助けて下さり、私たちの心を開いて信仰をお与え下さらなければ、誰も主の復活を信じることなどできないのです。

主イエスは、十字架にお架かりになる前夜、弟子たちに約束して言われました。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。…あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。」(ヨハネによる福音書 14章2節、3節)主イエスは本当に復活され、私たちが父の家にお迎え下さるために、働き続けておられます。

聖霊なる神に助けられて、神が主イエスをよみがえらせて下さったことを信じるキリスト者は、自分自身もやがて同じように神によって死人の中から引き上げられて墓を空にし、神の国に入ることを信じて、その日を心待ちにしています。この、確かな希望を抱いています。

今日、主イエスの復活を祝うイースターが世界中で祝われています。昔の出来事を記念しているではありません。主イエスが今も生きておられ、私たちをとりなし、支えていて下さるので、お祝いをしています。主イエスが私たちのために救いの道を開いて下さったことを喜んでいきます。今日、聖餐の食卓を囲むように、やがて神の国の食卓を主と共に囲む日が来るのです。よみがえられた主イエスを信じる者は、滅びることはありません。永遠の命を与えられ、神の国で神をほめたたえる者に変えられます。これが聖書の約束、私たちの救いの約束です。

今日洗礼を受けられる一人の姉妹のように、この約束を信じて良いのです。そして自分自身を、主イエスと一緒に神の国の食卓につく者の一人として数え上げて良いのです。私たちには今日、イースターの日、確かな希望が与えられています。永遠の命の約束です。主イエスの約束の言葉です。

(記 岡村 恒)